

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270101837
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム・滑石
訪問調査日	平成 20 年 10 月 3 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 17 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270101837		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム・滑石		
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市滑石6丁目5番75号 (電話) 095-860-6666		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年12月17日

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成10年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.6 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	一 円
敷 金	有( 円)	<del>無</del>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	160 円	昼食 410 円
	夕食	210 円	おやつ 円
	または1日当たり 780円		

### (4) 利用者の概要(平成20年9月1日:現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎北病院、そえじま歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中に位置しており、「ゆったり、楽しく、ありのままに」という理念のもと、地域の中で、利用者がその人らしく生活できるように支援に努めている。法人本部及び系列の近隣施設と協力・協働体制がしっかりできており、緊急時の対応や感染症対策をはじめとする研修、委員会活動等が活発に行われている。また、法人内の他事業所と連携を図って、地域のお祭りに参加したり、法人主催の行事に地域住民を招待したりして、交流を図っている。運営推進会議も内容が充実しており、「地域とともに」をモットーに、地域密着型サービスの向上に向け積極的に取り組んでいるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	過去の外部評価の結果を受け、計画作成担当者を中心に職員全員で協議し、運営推進会議や家族の意見を聞きながら、外部評価の課題の改善に向けて積極的な取り組みをしている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	過去の外部評価の結果を受け、計画作成担当者を中心に自己評価について職員全員で話し合いを行いながら、前向きに取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、行政関係者、入居者家族代表、地域住民代表、管理者、職員で構成され、3ヶ月に1回開催している。会議では、現状の報告、行政からの制度的な内容に関する説明、外部評価の結果報告等の話し合いを行っており、サービスの向上に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とは、訪問時などに定期的に話し合いを行い、ホームでの暮らしぶりや介護計画の説明を行っている。また、緊急時にはその都度連絡し、十分な説明を行い家族の意向を尊重した対応に努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人内の近隣施設との協働により、地域のふれあいまつり等への積極的な参加や、法人主催の行事に地域の方々を招待するなど、法人内の他の事業所と当ホームが一体となって、地域の方々との交流に努めている。また、法人内の通所事業所の利用者との交流も活発に行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人本部の基本理念のもとに、発足当初からグループホーム独自の家庭的な環境を重視した、その人がその人らしく日々暮らして行けるよう支援体制を構築し、利用者の状況に合わせて毎年サービス方針も見直されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、法人本部の理念及びサービス方針について、年度当初に全職員に周知を図るとともに、玄関ホールには勿論、職員の詰め所にも掲示し、日常のミーティングでも話題にしながら、理念の共有、実践に向けて、家庭的な環境づくり等に日々努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人系列の施設との協働により、地域のふれあいまつり等に積極的に参加するとともに、法人の主催の行事にも、地域の方々を招待するなど、施設と当ホームが一体となって、地域の方々との交流に努めている。また、施設の通所の利用者との交流も活発に行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価ともに、二人一組による検証をし、毎月1回、管理者を中心に職員全員で話し合いをして評価をするなど、評価の意義について理解を深めるとともに、評価を活かした具体的な改善に向けた取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政関係者、利用者家族代表、地域住民代表、管理者、職員で構成され、3ヶ月に1回開催されている。会議では現状の報告、外部評価の結果報告等の話し合いをしており、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1度の運営推進会議に市の行政担当者が参加し現状報告や外部評価の結果報告等の話し合いをしている。	○	市にグループホームの特徴、役割等々を広く深く理解していただくため、市の職員の研修の場として活用してもらうなど、市との連携について一考を加えられると効果的ではないだろうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に家族面談をしており、ホームでの暮らしぶりや介護計画、金銭管理等の説明を行っている。また、来訪できない家族については、電話で日々の生活状況等の報告を行なっている。緊急時についてはその都度連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族懇談会を実施している。家族の訪問も頻繁にあり、その際に意見や要望などは少ないが気軽に話してもらっている。意見や要望等については、苦情受付簿に記録し、全職員で共有し対応していく体制が整備されている。	○	意見、要望等を引き出そうとするのではなく、家族と一緒に利用者本人のホームでの生活を考えていくという心がけで、これから家族との話し合いを続けていかれることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者及び家族に十分な説明を行うとともに、交替するまでの一定期間は重複勤務するなどの配慮がなされている。また、家族からも入居者に伝えてもらったり、他の職員のフォロー体制も整備されている。今年度は、管理者の異動もあったが特に利用者には戸惑いなどはなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の職員研修計画に則り、研修が実施されており職員も積極的に参加している。また、研修に参加した後は、研修報告書を提出、ミーティングでの報告、研修報告書の回覧等が整備され、職員全員が情報の共有をしている。また、計画的に毎月1回ホーム独自の勉強会も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流は積極的に行っているが、その他のグループホームとの交流は行っていない。そのため、今後他のホームを見学し、サービス等を見直す機会も設けたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定の方には、併設の小規模通所介護を利用いただき、職員及び利用者顔馴染みになってもらった後に入居していただく体制が整備されている。また、入居前後に家族と十分に話し合い、職員もごく自然に関わり、スムーズな援助ができるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者の方々は人生の先輩である」という考えを、職員一人ひとりが共有し日々のケアを実践している。食事の準備や食事中も利用者と一緒に過ごし、きめ細やかな関係づくりに努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や声かけの中で、利用者の希望の把握に努めている。また、家族とも話し合いながら希望や願いをできるだけ実現させるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族に意見や要望を聞き、それに沿った介護計画を作成しているということである。特に、本人との日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き介護計画に反映させるよう努めている。利用者本人のできることを十分に把握し、計画の中に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃のかかわりの中での職員の気づきや意見は、申し送りノートに記録し、朝夕の申し送りやミーティング等で随時検討し、計画の見直しに活かしている。また定期的に家族とも話し合いを行い、必要時には現状に即して随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の様々なサービスを効率的かつ有効に活用し、利用者や家族の状況に応じた通院の同行など必要な支援は柔軟に対応し、個々人の満足感を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に家族と話し合い、利用者の主治医、家族、ホームの協力医療機関等と協議して、適切な医療を受けられる支援体制を整えている。受診や通院は、基本的に家族にお願いしており、状況によって柔軟な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の医療が必要となった場合は、医療設備が整った病院、施設等へ移っていただくことを基本方針として、利用契約時に家族にも伝え、できるだけ早い段階から家族、かかりつけ医等々と話し合っている。職員全員で基本方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングにおいて、プライバシー確保の徹底にかかる職員の意識の向上を図っている。また、便りや広報などに使う写真、個人情報を他への提供の際は家族に口頭で許可を得るなど、個人情報保護にも全力で取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の利用者個々人の気持ちを尊重して、それぞれのペースに合わせた支援が行われている。訪問当日も利用者一人ひとりが自由に自分の生活リズムで過ごす様子が窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態により、職員と一緒に料理の盛り付けをするなど、食事の準備をしている。後片付けは身体的に元気な利用者が他の利用者の食器も片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に毎日午前中と定めているが、日勤の時間帯は利用者個々人の希望に合わせて柔軟に対応している。	○	入浴時間は午前中と定めているが、実際は17時くらいまで希望に合わせての入浴支援を行っているので、時間の設定については実態に合わせた変更を検討するよう期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を考慮のうえ、洗濯物たたみ、食事の準備・後片付け、また、ちぎり絵や週1回の音楽療法、さらには地域の保育園での交流等がなされていた。訪問当日は脳トレーニングが行われており、参加している利用者は楽しそうに取り組んでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、買い物、散歩、ドライブ等の外出支援をしている。特に毎日の食材購入については、積極的に声かけを行い一緒に出かけるよう努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者をはじめ全職員が、居室や日中玄関に鍵は掛けることの弊害を十分に理解し、目配り、気配りを充分に行い、利用者の自由な暮らしの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等災害マニュアルも整備され、マニュアルに基づき訓練も消防署との連携のもとに実施している。避難場所についても全職員が周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況は、一日を通してチェック表に記録し、全職員が情報を共有している。献立については、献立担当の職員が交代で立てている。また、法人内の管理栄養士に栄養のバランス等についてアドバイスを受ける等、栄養面についても十分に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、気の合った入居者同士が気軽に話ができるように、食堂のテーブルを3つに分けたり、リビングにはソファを置くなどの配慮がなされている。訪問当日も、入居者それぞれが思い思いの場所で、楽しく、笑顔でくつろいでいた。また、共用の居間には、利用者のちぎり絵などの作品を飾るなど家庭的な雰囲気漂っている。	○	リビング等にはカレンダーや時計が掛けられているが、掛ける位置や文字の大きさについて、もっと入居者に配慮した位置や大きさを検討されることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やパッチワークなどを飾ったり、本人と家族による居心地よく過ごせる居室づくりが行われていた。また、ホーム側も本人や家族の意向を尊重しながら、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。室内の換気も十分に行われ快適な環境である。		